

なごんなご

熊野県通信
No.28
82.11

82年を迎えるにあたって

82年を迎え、我々は昨秋の闘いの成果を踏まえて今後の闘いへの決意を固くかたくなにきいて、

昨年同様、我々は「この秋を迎えるにあたって」と題して、所信、方針を明らかにした(「なごんなご」81)。
すなわち、現在の日帝の攻撃体制づくしに向けた人民への攻撃、そしてその一環としてある廢棄化攻撃に対して、これを打ち破るために、全人民の最先頭で不屈非暴力に闘い抜いている三里塚闘争と結合する事。そして全国的な大衆的闘争陣地をもつて入管集止阻止、廢棄化攻撃を粉砕していくという事である。我々は今後もこの立場を堅持しつづけていく。

入管集止阻止

10月以降、日帝は我々の「三里塚闘争への決意を断る」10月16日田邊の両町長部座り込み闘争に強く賛同して、田邊市長を58の集止阻止の中心人物として、82年集止阻止の旗本をかち取った。

しかし、二つした闘いにもかかわらず、大学当局は入管集止阻止を拒み、集止阻止の保証をなくして、校内自治管理強化を一面におし進めようとしてきている。我々は更に闘いを広げ、

クラス討論、クラス会議等、大衆的高揚の下、10月16日集止阻止58名を拒み、いつ成功を待ちどろり、入管集止阻止を断固阻止するつもりで、全学の怒りを大衆にたたきつけた。1月17日、この入管集止阻止を拒む闘いに大衆的闘いをもつて先制的な闘争を構築したのである。

大学当局は、いまだ今春入管集止阻止を狙って活動している。我々は昨年の闘争の高揚をひき継ぎ、全学の大衆的な力での攻撃を加えていく。もし大学当局が全学を意に反して入管集止阻止、廢棄化を行わねばならぬ、どのようか事態がひき起こされることも、責任はすべて当然にわたることを警告しておく。我々は、これからの闘争として、校内自治、大衆的闘争を構築していく。

2020三里塚

現地闘争へ!

廢棄化攻撃は、急速に進められていく日帝の侵略戦争に向けた国策再編の一環である。それが故に、日帝の反動攻撃に対し、自ら反撃の闘いに求むる。闘いの陣地を作る事のみならず勝利はあきらめない。我々は日帝の攻撃の前10年間も不屈非暴力に全人民の最先頭で闘っている三里塚闘争と結合して闘っている。

現在、三里塚闘争は、二期着工(B.C)進路建設(攻撃)のめぐり、緊迫した情勢にある。昨年1月の二期着工宣言以来、ジェット燃料倉庫輸送強行延長、睡床法攻撃、構抵量地強奪活動、そして反対同盟の分析切り出しを狙う成田用水攻撃等が、かたはられてきている。また昨年未だは、運輸省の二期工事推進責任者自ら、現地に乗り込んで来ている。二つした攻撃に対して、二期着工阻止の闘いはすでに開始されている。とりわけ昨年の10月の現地闘争では

全国から一万一千五百の人民の集集がかち取られ、二期着工、さきこうむ

日帝、皇老公団に先制的な打撃を与えたのである。日帝は82、86年度更新を拒んでおり、今年は三里塚10年の闘い一切をかけた戦況が、不可避の情勢であり、82には反対同盟主催の三里塚二期着工阻止全国総決起集会が行なわれる。全ての皆さんが我々と共に三里塚闘争に決起せられん事を訴える、さる現地闘争へ!

学園から

闘いの炎を!

最近の新聞紙上で明らかなように、日帝は、朝鮮有事、朝鮮侵略を公言し始めた。そういって、反動化の嵐の中を、三里塚闘争を先頭とする全人民的闘争と結合し、学園から反撃を開始しようではないか。全この嵐の中、我々の闘いに合流していかれん事を訴える。共に闘え!

熊野県自治会
左 大町通川崎東入 Tel. 751-4050・4051